

横浜市インフルエンザ流行情報 21 号

横浜市医療局健康安全課／横浜市衛生研究所

<<トピックス>>

B 型の割合が増加しています

【第 6 週 (2 月 5 日～2 月 11 日) の概況】

- ✓ 定点あたりの患者報告数^{※1}は、横浜市全体で **26.47** となり、流行注意報が発令中です。
- ✓ 年齢別では、15 歳未満の報告が全体の 81.7% を占めています。
- ✓ 学級閉鎖等は、小学校を中心に 146 施設、患者数は 2,403 人です。
- ✓ 市内迅速診断キットの結果は、A 型 16.3%、**B 型 83.6%**、A 型・B 型共に陽性 0.1% で、**B 型の割合が増加**しています。
- ✓ 病原体分離・検出状況では、AH3 が多く分離されています。

📢 咳エチケットや正しい手洗い^{※2, ※3}等でインフルエンザを予防しましょう。

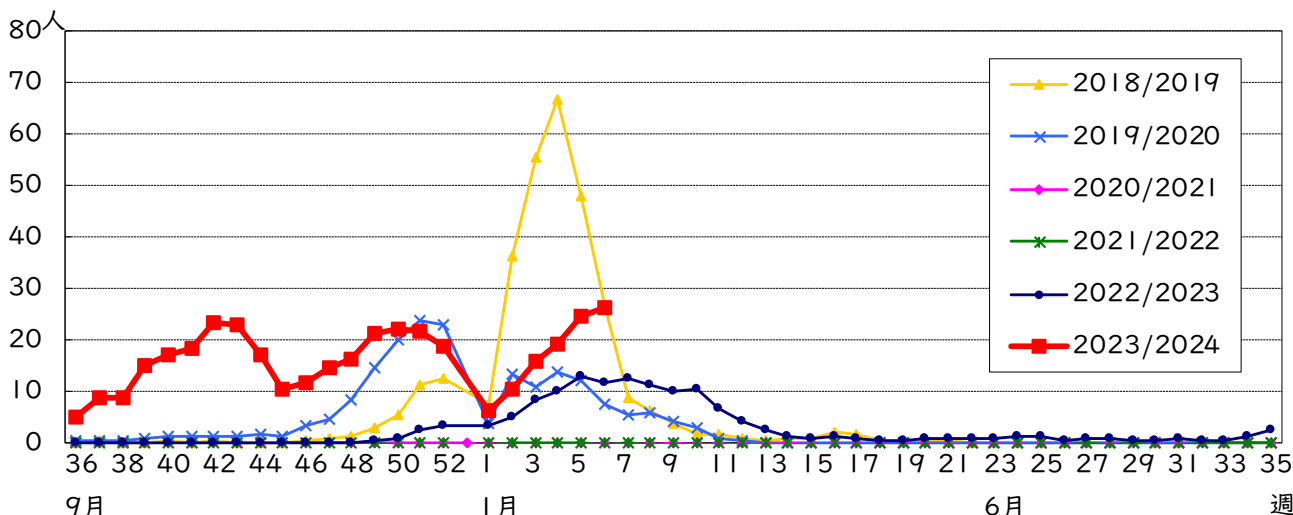
※1 定点あたりの患者報告数とは、1 週間に 1 回、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関 (市内 153 か所) から報告された患者数の平均値です。

※2 横浜市保健所ホームページ (「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

※3 令和5年度インフルエンザ Q&A (厚生労働省)

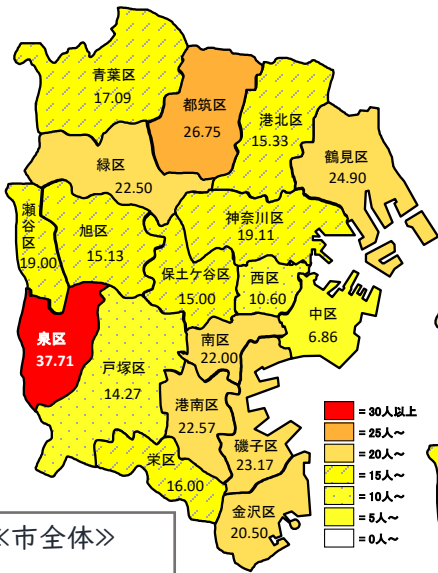
【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は、2023/2024 シーズン開始の第 36 週 (4.91) 以降増加が続き、第 39 週 (14.86) に流行注意報発令基準値 (定点あたり 10.00) を上回りました。第 6 週は 26.47 です。

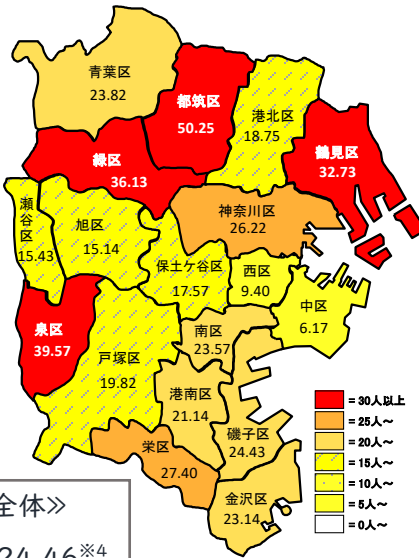


地図で表した直近 3 週間の区別流行状況
(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

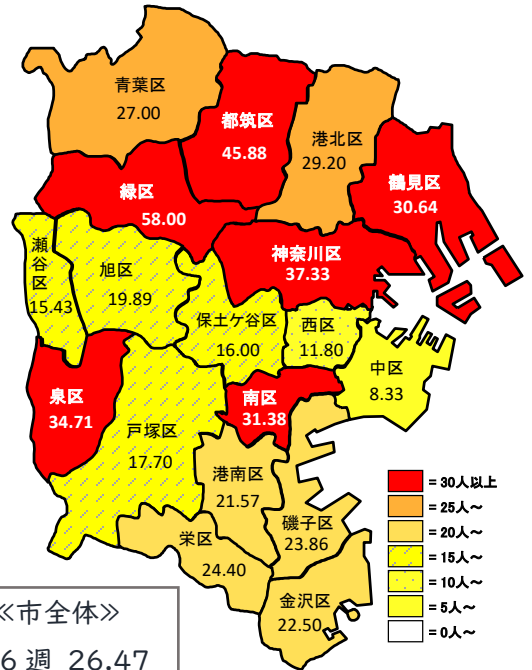
※4 追加報告のために、以前お知らせした情報から報告数が更新されました。



《市全体》
第4週 19.29



《市全体》
第5週 24.46※4



《市全体》
第6週 26.47

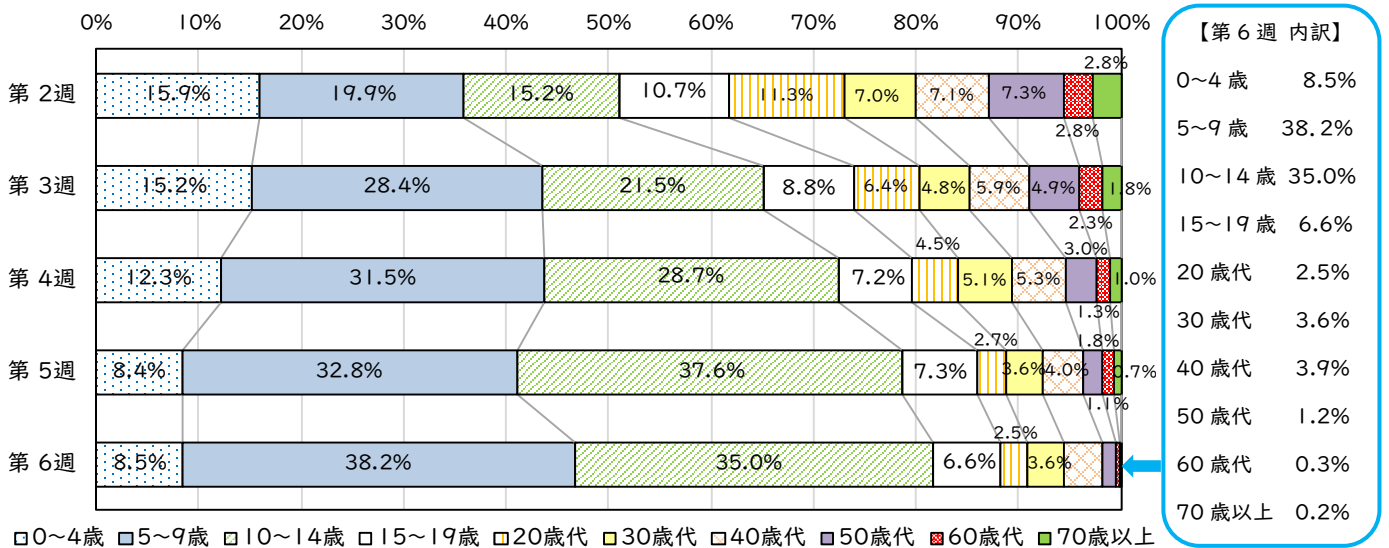
【参考】
直近流行(2022/23シーズン)の流行推移

- 流行の開始【定点あたり 1.00 以上】
第 51 週(2022 年 12 月 19 日~12 月 25 日)
- 流行注意報発令【定点あたり 10.00 以上】
第 5 週(2023 年 1 月 30 日~2 月 5 日)
- 流行注意報解除【定点あたり 10.00 未満】
第 11 週(2023 年 3 月 13 日~3 月 19 日)

【年齢層別集計】

第 6 週の患者年齢構成は、10 歳未満が 46.7%、10 歳から 15 歳未満が 35.0%で、15 歳未満が全体の 81.7%を占めています。

<年齢層別患者割合>

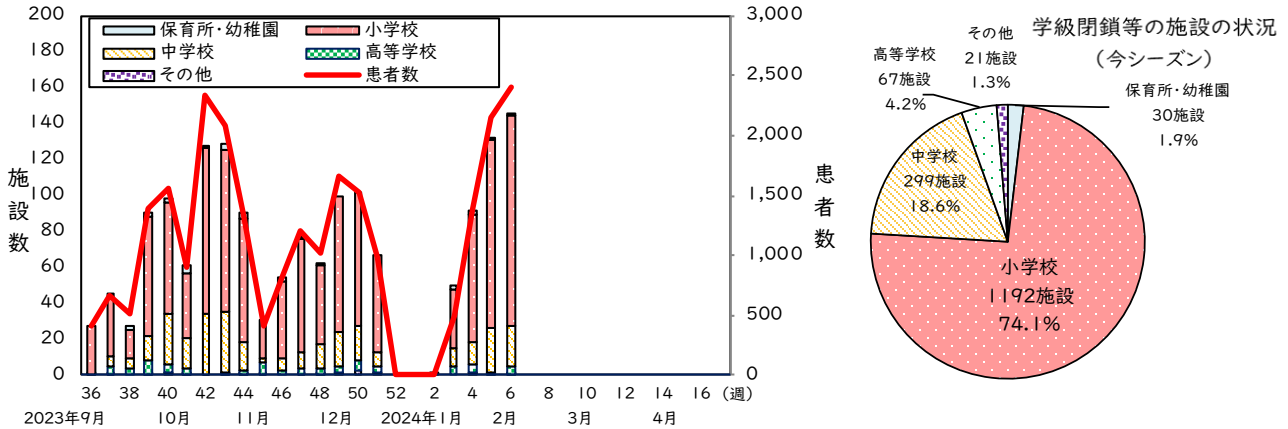


【第6週内訳】

- 0~4歳 8.5%
- 5~9歳 38.2%
- 10~14歳 35.0%
- 15~19歳 6.6%
- 20歳代 2.5%
- 30歳代 3.6%
- 40歳代 3.9%
- 50歳代 1.2%
- 60歳代 0.3%
- 70歳以上 0.2%

【市内学級閉鎖等状況】

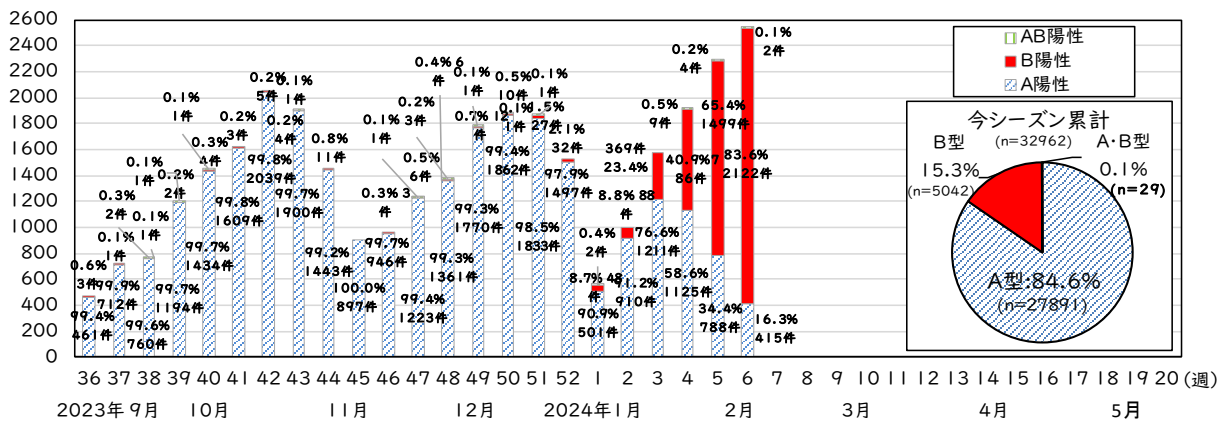
第6週は、146施設（保育所・幼稚園1、小学校117、中学校23、高等学校4、その他1）から、2,403人の患者数の報告がありました。今シーズンの累計は1,609施設、延べ25,291人の患者数が報告されています。施設の割合は、保育所・幼稚園1.9%、小学校74.1%、中学校18.6%、高等学校4.2%、その他1.3%です。



【迅速キット結果】

第6週の迅速キットの結果は、A型16.3%、B型83.6%、A型・B型共に陽性0.1%で、B型の割合が増加しています。

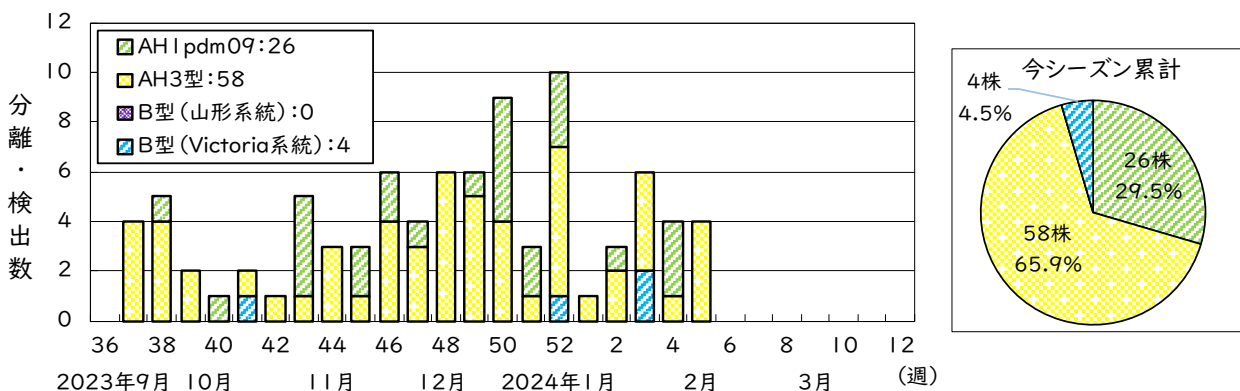
今シーズンの累計は、A型84.6%、B型15.3%、A型・B型共に陽性0.1%です。



【市内病原体検出状況】

市内の病原体定点^{※5}から累計で、AH3型が58株、AH1pdm09が26株、B型(Victoria系統)が4株分離・検出されています。全国の分離・検出状況^{※6}と同様の傾向と考えられます。

<市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況(2024年2月12日現在)>



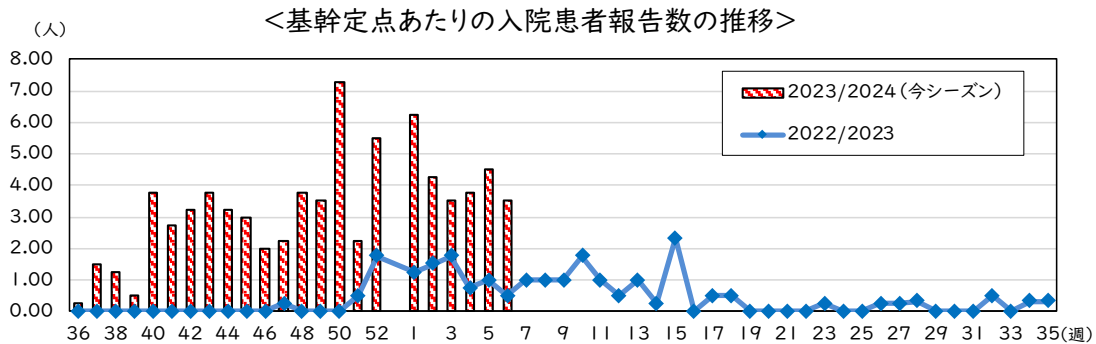
※5 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に17か所あります。うち、インフルエンザについては12か所にて採取されています。

※6 インフルエンザウイルス分離・検出速報(国立感染症研究所)

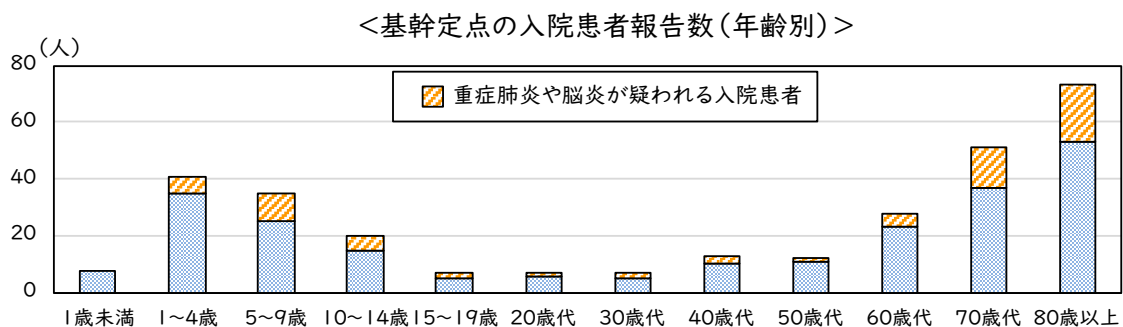
【入院サーベイランス】

市内基幹定点医療機関^{※7}におけるインフルエンザ入院患者は、第6週は14人の報告があり、今シーズンは現在までに累計302人（10歳未満84人、10歳代27人、20歳代7人、30歳代7人、40歳代13人、50歳代12人、60歳代28人、70歳代51人、80歳以上73人）です。

入院時の診療内容（ICU入室、人工呼吸器の利用、頭部CT検査、頭部MRI検査、脳波検査を実施）で重症肺炎や脳炎が疑われる患者は、現在までに累計で69人（うち第6週報告数は2人）です。



※7 基幹定点:患者を300人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



※ 小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。

* 参考リンク

近隣自治体の流行状況

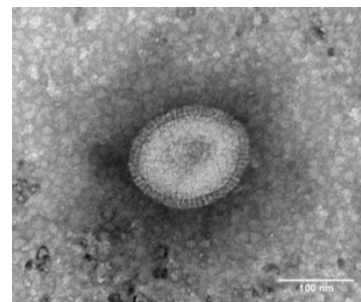
- [神奈川県](#)
- [川崎市](#)
- [東京都](#)

全国の流行状況

- [国立感染症研究所](#)

インフルエンザウイルスの
電子顕微鏡写真(6万倍)

撮影:
横浜市衛生研究所



【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
横浜市医療局健康安全課

TEL 045(370)9237
TEL 045(671)2463